



皆さま、おはようございます。昨年6月に会長に就任いたしました、英文学科17回生の三浦智子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日はお忙しい中、第54回総会へお集まりくださりありがとうございます。このように皆さまにご出席をいただいて総会を開くことができましたのは、実に3年ぶりとなります。すべての人の生活に影響を及ぼしたコロナ禍ですが、青谷会にも様々な変化がありました。年間事業の多くはやむなく中止、または規模を縮小し行いましたが、役員会はオンライン形式を取り入れて、感染状況が厳しいときも滞ることなく続けてまいりました。この一年間の取り組みと、現在の問題についてお話しさせていただきます。

まず、奨学金に関することです。青谷会の事業である奨学金給付は、皆さまからの寄付金で成り立っている海星青谷会基金から支出しておりますが、近年の寄付減少により給付を継続するのが難しくなる見込みでした。そこで、昨年の書面決議総会において、「今後、基金残高不足のために奨学金が給付できなくなる場合は、一般会計から不足額を振り替えて奨学金制度を継続する」という議案を提出し、承認されました。一般会計は、私たち会員が在学中に納めた同窓会終身会費を基にしています。

さらに役員会では、奨学金について皆さまにもっと知っていただくことが必要と考え、同窓会報アルムネーに特集を組みました。実際に制度を利用された元奨学生のメッセージを掲載し、手軽に寄付をしていただけるよう10年ぶりにゆうちょ振込用紙を作成しアルムネーに同封しました。その結果、多くの方にご賛同いただき、神戸西洋美術史講座からのご寄付と合わせて今後4年分の奨学金を確保することができました。ありがとうございます。給付額と給付人数については役員会で審議し、今までどおり、4年次生2名に20万円ずつの奨学金給付を決定しましたことをご報告いたします。どうぞ引き続きご支援をよろしくお願ひいたします。

次に、今、最も大きな問題となっている、役員に関するお話をいたします。

青谷会では毎年8名～9名の役員が交代となるため、主に42歳の学年を中心に役員探しをしてきました。方法は、まず学年幹事さんへ役員の順番が回ってきたこととお知らせし、同級生の中で引き受けてくださる方を探していただきますが、なかなかこの段階で見つかることはありません。また、役員探しについて、幹事さんのご協力が得られない場合も多く、実際には役員が名簿をもとに、お一人おひとりに電話をかけてお願ひしている状況です。しかし、最近のご自宅の電話には出られない方が多いため、従来の方法を見直し、事前に役員についての説明とお願ひの手紙を郵送した上で、連絡を取りました。

昨年度の英文仏文家政科の42歳学年で、関西圏にお住まいの方は名簿登録上は160名いらっしゃいます。そのうちご本人と連絡を取ることができたのは1/4弱、電話は繋がってもそこはご実家でご本人は住んでおられない場合が1/4、残り半数以上は「呼び出しても電話にでていただけない」や「番号が使われていない」などでした。このように「名簿に登録はあるが、実際には連絡が取れない」という結果は今年に限ったことではなく、おそらく今後も同様だと想像できます。SNSの普及にともない、個人同士で繋がるのが簡単になり、同窓会という団体への帰属意識が薄れていることも原因かと思われまます。

幸いにも今年はお二人が役員を引き受けてくださいましたが、交代に必要な人数を42歳の1学年から選出することはできませんでした。そこで、役員会で検討を重ね、役員年代の幅を広げようという考えで、今年から62歳の学年にも選出をお願ひしております。40代は子育て・60代は介護をなさっている方も多く、どの年代にもご事情がおありと承知しておりますが、同窓会存続のためにご協力いただけたらと願っております。

また、現在の役員の大半は自分の仕事を休んで青谷会の業務をこなしている状態ですので、負担を少しでも軽くできるように業務内容の見直しを行っています。その中で、皆さまに関係することですが、同窓会報アルムネーについて変更がございます。毎年12ページで発行しておりますが、

編集作業の負担を軽減するため、来年3月発行の次号より原則8ページとさせていただきます。ページ数は減りますが、今後も大学や同窓会の情報をお届けしてまいりますので、ご了承くださいませようお願いいたします。

同時に、役員の選出や交代のシステムについても検討しております。現在のシステムは32年前に総会で承認されたものです。それ以降、多くの同窓生が役員となり献身的な働きで青谷会を支えてきました。しかし、時代の流れとともに状況は大きく変化しています。今後は、もっと少ない役員数で、青谷会をコンパクトに維持する必要があるため、役員の代わりとなる事務員の配置・事業サポーターの登用などを考えております。

最後に、来年の総会後の懇親会について、お話しさせていただきます。

皆さまご存じのとおり、毎年、総会後にはパーティーと称する懇親会やイベントが行われます。パーティーを取り仕切るのは役員ではなく、48歳になる学年のパーティー班と呼ばれる幹事さんたちです。パーティー班は学年内で自主的に結成していただき、懇親会の企画を立て、1年をかけて準備をしています。この伝統は長く続いてきましたが、ここ数年、パーティー班を結成することが、非常に難しくなっております。理由は、役員探しが難航する理由と共通ですが、ほとんどの方がフルタイムで働いていて時間的余裕がないこと、学年の横のつながりや同窓会への関心が薄れていることなどです。そして、来年のパーティー班については、学年幹事さんが努力はしていただきましたが、お一人のみしか引き受け手がなく、残念ながら従来のような懇親会は開催できない見込みです。

毎年の催しを楽しみにして、総会に出席してくださる方々には申し訳なく思いますし、何十年も続けてきたことを途絶えさせてしまうのは心苦しい限りです。しかしながら、同窓会を長く維持していくためには、活動を時代に合った形に変えていくことも大切ではないかと思えます。

1年後、コロナの状況が落ち着いていましたら、総会後は食堂へ場所を移して、皆さまにはお茶とお菓子を召し上がりながら自由にご歓談いただく形式の懇親会を予定しております。準備に大きな負担はかけられませんが、同窓生が旧交を温める場は、ぜひ残していきたいと考えております。

今年の秋、10月23日の大学祭が対面形式で開催されましたら、青谷会もカフェやバザーで参加いたします。総会だけではなく、ぜひ大学祭にもお誘いあわせの上、お運びくださいますようお願いいたします。

さて、現状についてのお話が随分と長くなってしまいました。お聞きいただきありがとうございました。難しい問題が山積みではありますが、青谷会の将来を見据えて、より良い解決法を探っていく所存です。至らぬ点も多いかと思えますが、役員と力を合わせて努力してまいります。青谷会会員の皆さまには、なお一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

